

1. 荒川流域の概要

1.1 流域の状況

荒川は、奥秩父山系の甲武信ヶ岳（標高 2,475m）に水源を発し、秩父盆地を貫流して寄居付近で平野部となり、熊谷付近で西方から南方に流路を変え、途中で入間川と合流して荒川放水路（現荒川）を経て東京湾に注いでいる。

流域の面積は 2,940km²、流路延長は 173.0km である。流域面積の内埼玉県が約 2,440km²で埼玉県全面積の 64.3%を、東京都は約 500km²で、東京都全面積の 22.9%を占めている。

荒川流域には、古来より全域にわたって人が住み着き、荒川の恵みを受けていた。荒川の流路は江戸時代初期まで利根川水系と一体となっていたが、江戸幕府により流路を入間川筋へと瀬替が行われ、現在の流路となり、農業用水及び水運の利用がよりいっそう盛んになっていった。

現在荒川は、首都圏を流れる河川として農業、工業及び水道水源として重要な役割を果たす反面、有史より「荒ぶる川」と異名をもつ様に氾濫、洪水を現在に至っても繰り返している。



図-1.1 荒川水系流域全体図

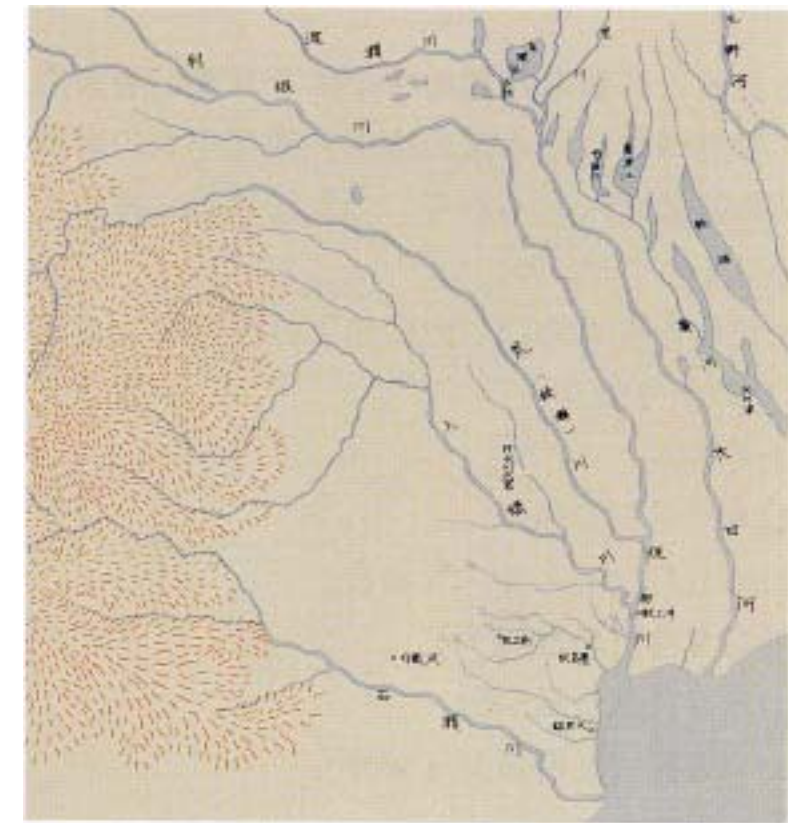


図-1.2 平安時代の利根川・荒川水系想定図
（荒川 2000 パンフレット）

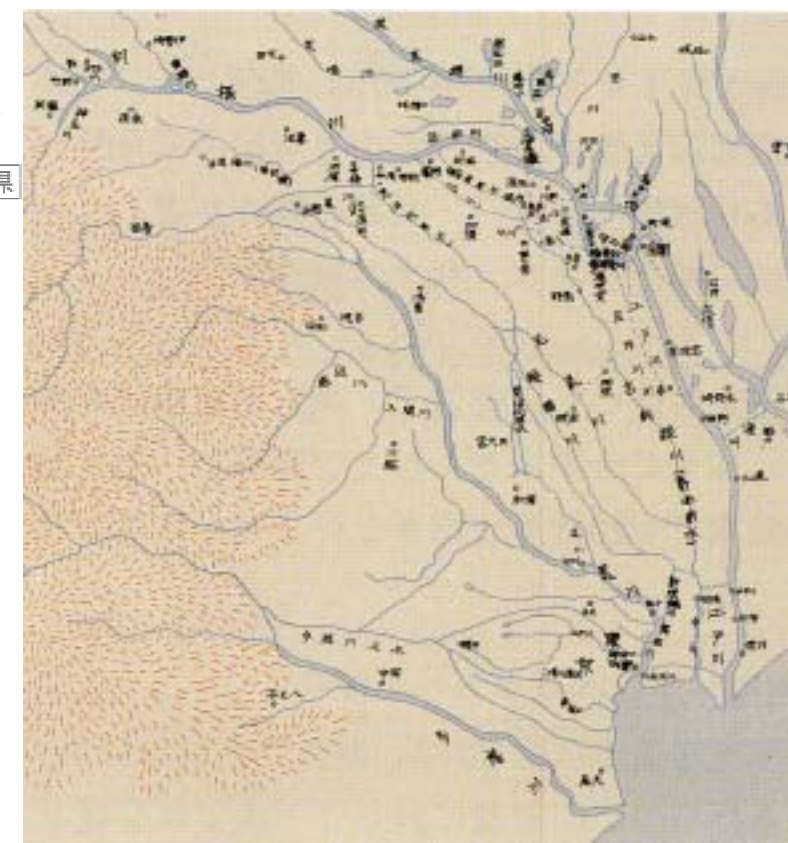


図-1.3 大正時代の利根川・荒川水系想定図
（荒川 2000 パンフレット）